

令和3年度使用教科用図書調査に関する合同報告会議事録（第2日）

1 開会

2 協議事項

令和3年度使用中学校用教科用図書加印地区共同調査員会からの報告及び質疑応答

（1）数学

① 班長からの報告

② 質疑応答

委員：啓林館の教科書について、巻末の発展的内容は縦開きになっており、使いにくいということはありませんか。

班長：今までとは異なっている部分です。使いやすいかどうかについては、実際に使用してみなければ何とも言えない部分がありますが、内容は充実しています。

委員：「みんなで学ぼう」「自分から学ぼう」「振り返ろう」「チャレンジしてみよう」については、授業の中で活用するのですか。それとも、子どもたちが主体的に学ぶ中で活用するのですか。

班長：指導する教員によって変わってきますが、巻末の内容については読み物であったり、学んだことを生かしていったりする内容になっているため、全てを教員が教えるのではなく、子どもたちが自主的に学んでいくこともできるようになっています。内容が豊富なため、全て授業で扱うことは難しいため、自主学习で扱うことも増えてくるのではないかと考えます。

委員：満点ならば問題はないですが、他の出版社とは違い啓林館は悪いところの提案がありませんでしたが、公平性ということを考えると、巻末の変化などは書かれていてしかるべきではなかったかと感じます。

班長：調査員から意見は出ましたが、方向性が変わっているから使いにくいといった意見は出ませんでした。教科書の形が変わっていますが、内容が充実しているので、よいと判断しました。

（2）理科

① 班長からの報告

② 質疑応答

委員：学校図書の各章のはじめに「Can-Do List」やできるようになりたい目標が載っていますが、これについて委員の皆さんからどのような意見が出ましたか。

班長：学校図書では、各章の最初と最後に「Can-Do List」がついています。これについては、子どもたちに主体的に学習させ、自分の中にどのように学習内容が入っているかを確認させるねらいがありますが、最初と最後だけになっています。一方、東京書籍は各章の最初と最後以外にも、今どうなっているのかを見とることができるようになっています。また、啓林館についても、

各章の中で右端や左端にコラムなどがあり、どのように考えればよいかを確認することができる構成になっています。「Can-Do List」そのものがマイナスに働くことはないと思いますが、各章の最初と最後のみの確認であれば、これまでも行ってきたおり、従来と変わらないのではないかといった意見が出ました。

委員：各社とも工夫された素晴らしい教科書だと思いますが、様式2の「表記・表現」の中で、東京書籍のみ△がついていました。私が見た印象では、東京書籍が最も百科事典のように感じましたが、これは多すぎるということですか。

班長：東京書籍においては、生徒の興味をそそるような様々な写真やコラム、漫画が記載されていますが、その量が多過ぎると感じました。このような記載が多過ぎると、目移りし過ぎる気がします。

委員：長い間、啓林館が使われていますが、今回違う教科書が採用された場合、理科の教員にとって、教えにくくなること等ありますか。

班長：すべての教科書が学習指導要領に即した内容で構成されているので、どの教科書を使っても差し支えはありません。ただ、経験の長い教員の中には、啓林館の方がこれまでと同様の観察・実験が載っていたり、これまでと似た流れで学習を進めたりできるため、啓林館の方がよいと感じる教員がいると思います。また、東京書籍のように、以前の観察、実験内容等と変えているものもあるため、啓林館以外の教科書を採用しても、学校現場としては対応できます。

委員：理科では公式や計算式等が出てくるため、数学との関連が多いように思います。理科の教員が指導する上で、理科と数学で同じ教科書がよいと感じることはありますか。

班長：計算式等について、例えば数学の啓林館の教科書のページ数が表記されていれば、理科も同じ啓林館がよいという解釈になります。しかし、教科書会社は、自社の教科書が複数の教科において採用されない可能性があることも踏まえて作成しているため、他の教科の教科書のページ数が記載されていることはありません。また、数学との関連だけでなく、技術等の他の教科や高校との兼ね合いもあります。そのため、数学と教科書が違っても教えにくいということはありません。

委員：理科という教科は、実験が多い特徴があるため、各社とも安全性を説明するためにQRコード等を設けています。様式2の観察、実験の内容に関して、東京書籍は◎が多いが、その他は◎が少なくなっています。このことについて詳しく聞かしてください。

班長：注意事項の記載に関しては、理科の場合は命を落とす危険性があるため、重要になってきます。各社とも記載に関しては、きちんと書かれていますが、巻頭・巻末部分の記載内容に関しては、東京書籍・啓林館・学校図書・教育出版の順になるかと思います。大日本図書に関しては、目の引き方が弱いように思われました。

(3) 美術

班長からの報告

(4) 技術・家庭（技術分野）

班長からの報告

(5) 技術・家庭（家庭分野）

① 班長からの報告

② 質疑応答

委員：「主体的で対話的で深い学び」を◎と評価した理由は何ですか。

班長：ガイダンスが素晴らしいと評価しました。

(6) 外国語

① 班長からの報告

② 質疑応答

委員：本文の取り扱いについて、会社によってはQ&A だけであったり、深く掘り下げていたり、3問だけであったりしますが、その点については、どのような意見が出ましたか。

班長：東京書籍、開隆堂、三省堂、教育出版は、そこそこの文章量があり、良かったです。それを使ってリーディングもできます。他の2社については、少ないところがあったので、もうちょっとたくさん欲しいと感じました。内容的には、日本の文化、外国の文化、生活に関することも出ていたので、よいと感じました。

委員：文章の内容理解などの面でどのように進めていくかなどの扱い方についてはどうですか。

班長：リーディングを含めて指導していくのがよいと感じています。

委員：どの教科書も素晴らしい内容でした。時代が違うのかもしれないが、巻末にはまとめ、単語など全部のっています。今、開隆堂を使っていますが、2・3年で教科書が変わることを気にしています。私の主観だが、東京書籍や開隆堂、三省堂ならどれになっても大丈夫なのかなと感じています。開隆堂を読んで、2年か3年の最後で「としょかんライオン」の英語版が出ていました。普通なら「星の王子様」が多いと思います。「としょかんライオン」は2007年ごろ出た本で、私も読み聞かせを行いました。中学生になって、英語の教科書に昔読んだものが英語で出ている。もし計算されて選ばれているならえらいと感じます。

班長：今、開隆堂を使っていますが、ただ、教師になって30年近くなるが、NEW CROWN（三省堂）、NEW HORIZON（東京書籍）などを使ってきました。慣れがあるというのはありますが、他の3社が決して悪いわけではございません。

委員：これから、デジタルコンテンツが重要な部分を占めると思います。6社を見られてどこも充実していたと思いますが、調査員の中で、ここは使いやすい

という話がありましたか。

班長：1社すごいなというのはありました。他社のものもそれぞれ使えます。生徒が聞いてもわかりやすいと思いますので、ぜひ家庭でタブレットを使って学習してほしいと思いました。

(7) 特別の教科 道徳

① 班長からの報告

② 質疑応答

委員：教育現場においていじめなど様々な問題があると感じていますが、35 時間の道徳の時間の中で、いじめ問題に対して道徳の教材が直接的に問題解決の手段になるとは考えにくいところもあります。実際の現場では、どのようなポイントで学ばせたいと考えているのか、どのようなところが生徒に響きやすいのか、こういった項目が重点的に教えやすいのか、教えてください。

班長：道徳性は心の中の問題です。例えば、「心は見えないが、どんな心がけを持ったか?」「考えは見えないが、それをどんな行動に表したか?」という視点が大切です。思いやりに溢れた行動が重なっていくことで、生徒の道徳性が養われていきます。1つのいじめを取り上げた教材を学習することで、すぐに生徒の行動が変容するものではありません。SNS 等の教材もたくさん取り上げられていますが、それを自分には関係のない話にしてしまうのではなく、そこから学んだことを自分の意欲として外に出すことの繰り返しではないかと考えます。評価にもつながってきますが、よい感想が書けたからそれでよいということではありません。ある一定の期間学ぶ中で、はじめの考えはこうだったが、学習を積み重ね、いろんな人の意見を聞くことでどのように変容したかが求められています。一回限りのものではなく、即効性のあるものでもありません。道徳性とは積み重ねの中で育んでいくものと考えます。

委員：どの教科書にも取り上げられている教材がいくつか見られますが、特に、教育出版の、時代劇で斬られ役である「福本清三」の教材に感動しました。全員がエースになれるわけではなく、全員がストライカーになれるわけではないということを気付く時期にある生徒に向けて、脇役に注目させる教材を配置していることが素晴らしいと感じました。教員の視点から、これは素晴らしいと感じたものはありますか？

班長：できるだけ公平な視点で調査をしようという考えであつたので、調査員にはあえて日頃自分の市町が採用しているものとは違う教科書を担当してもらい、それぞれの教科書がどんな特性を持っているのかについて調査してきました。また、調査員にとっても様々な教材に触れたことで、いろいろな考え方があつてよいのだという学びの場にもなりました。

3 連絡事項

4 閉会